

風地蔵新聞

ひさしぶりのたいこ

鎌澤 宣子

八月十九日、何ヶ月振りか、太鼓の練習に行ってきた。社長が結婚して、福岡に行かれてから、今まで社長がされてきたこと、また相談したり、聞いたりしていたことが、自分の判断でしなと行けなかったり、原先生や大橋さんに伝えなければいけないことなどいろいろあり、心に余裕もなくなつて、それでも月に一回は行ってたので、すが、そのあとは、義母もけがの手術で入院してと、忙しいことを理由にして、自分に言い訳して行かなかつたのですが、母も退院して落ち着いたので、もう一度

心機一転頑張ろうと思いましたが、でも不安で、受け入れてもらえないだろうかと、う思いもあり、足取り軽くとは行かないけれど、頑張つて行きました。そんな不安も一瞬で吹き飛びました。着いてすぐ自転車を止めるところから、窓から見えたの、先に来ていた上野さんと大橋さんが気づいて手を振ってくれたのです。そこから足取り軽くなり、急いで中に入つて行きました。下駄箱の所で、小川先生にお会いして、「今日からまたよろしくお願います」と挨拶をします。先生の満面の笑顔が、満面の笑顔というんだよね。本当に心からの笑顔。で迎え

て下さつて、「多くを語らなくても大丈夫だよ」とおっしゃつて、本当にかつた。稽古場に入つて行く時、上野さんが、「元気があった！電話しようかと思つたけど、仕事が忙しいのかなと思つて。」と、気にしてくださつた。いたのがうれしかったのと、大橋さんも「大丈夫だった？何かあったの？」と聞いてくださった。社長が結婚したこと、母のけがの事など話しながら、皆がそろそろの待ちました。篠原さん親子が来られて、今日は上のお兄ちゃんが来てなくて、どうしたのかと思つたら、大垣市と中国の交流で、一週間中国に一八日か

と、そのすぐ後に富美子さんも来られて「来てくれたんですね。」と嬉しそうに声で話をしてくださりました。篠原さんもこの前お店に来てくださったので、そのお礼を言いながら、またプレゼントしたかったかっちゃん止めたも「浴衣着た時につけて、すぐかわいくて写真撮つたんですよ」と、子どもさんたちがだいにしている事を話して下さつたり、普通にいつも来て迎えるかのように迎えてくださつて嬉しくて涙が出そうになりました。稽古が始まつて、今までやった事のある「楽」「太鼓ばやし」「ほうねん」を続けてたいたいのですが、

本間に久しぶりで、楽は何とかならな、思うけど、他の二つはわからん」と思いながら、グループを組んでくれた大橋さん、上野さんが、合図をしてくれたり、大きくうなづいて教えてくださつて何とかがたたくことができました。「鎌澤さん、すごいね、ブランクがあつたのに、出来るし、すごいよ。」と言つてくださり、「ほんと、ほんとすごい！」と言われ、ちよつとほつと胸をなでおろしました。このあと「ひびき駒」という初めての曲を習つたのですが、リズムは一緒なのですが、強弱が難しく、最初と最後を強くしたり、まん中を強くしたりを組み合わせて打つのですが、だんだんこんがらがつて来て、リズムも全然なくなつたり、何回打つたかわからなくなつたりと、

みんな難しいと言いつつ、一生懸命に、時間の経つのも忘れていました。少し遅れてこられた能勢さんおやこ（この方たちは別格）は途中からでもすぐできて、すごいなと思いつつながら、みんな心がつになつた感じで練習しました。休憩時間をかけてくださつて、大丈夫だった？からの調子が悪かったの？と聞いてくださった。そうじゃない事を伝えて、「これからは宜しくお願います」と、本当にみんなが温かく迎えてくださつて、仲間っていいなと、大切にしたいなと思つていました。太鼓の仲間だけではなく、風地蔵のスタッフもそうだと思います。改めてがんばりますので、これからも宜しくお願いします。

第95号
 発行 編集
 風地蔵
 田中 美帆
 〒503-0922
 岐阜県大垣市馬場町85

ヤフーブログ
 毎日更新中
 風地蔵徒然日記
<http://blogs.yahoo.co.jp/rion5230>

あまでつすです

光の探究 闇の誘惑... 十七世紀の巨匠「レンブラント展」を名古屋市美術館で観て来ました。管弦楽の魔術師がモーリス・ラヴェルなら、光と闇の魔術師はレンブラント・ファン・レインである。

齋のミネルヴァ」等。レンブラントライトと云われる、顔の斜め四十五度からのライティング。影側の目の下に出来る逆三角形のハイライトを云う。これを絵の裡に見つけるのも、ひとつの愉しみでもあった。

西洋紙は白いが雁皮紙は表面が滑らかでページユががって色合いが好い。レンブラントが好んだと云われる。会場での違いを比較することもできた。和紙は十七世紀オランダ貿易によって日本から持ち帰ったものだ。和紙を好んだのはインクの色が良いという利点がある。そして、レンブラントの

版画の裡には意外なミステリが隠されていて、これが実に面白い。例えば「矢を持つ女」では、女の左肩下に不気味な顔がこちらを見ている。「書齋の学者」では、窓の下に手だけが。「キリストの埋葬」では、ドクロが。「三本の木」には、何と草むらの影に潜むカッパルが描かれているが、嬌めつめつ見ない限りどれも見逃してしまふ。また、レンブラントは珍

しい物を集めるコレクターでもあったと云う。その裡のひとつ貝殻の版画は正にそうである。会場内にはヴァイオリニストの宮本笑里が十七世紀の大航海時代をイメージして作曲したと云う、この展覧会の為の曲「マリナグランド」が流れていて、「羊飼いの癒すキリスト」の版画に似合う曲でもある。

ミステリアスな絵の謎解き、見る者の感性を心地よく刺激するレンブラント。見終つてから、ショップでレンブラントの自画像入りのA4ファイルと展覧会カタログを購入。今もカタログを見乍ら余韻に慕っている。



石積み パフォーマンス 原 由里子

最近、風地蔵は毎月いろんなイベントを行っています。絵手紙教室、古布を使ったパッチワークや小物の展示などいろいろです。そうとうイベントから月に1回の教室が開かれたりと、いろんな出会いも広がっています。

8月11日木曜日、石積みパフォーマンスが、お店の玄関、入り口付近で開催されました。石積みパフォーマンスと言われても、ただ石を積んでいくのを見ているだけ!と思われると人も中にはいるかもしれません。

古くは5千年前からあり、とても歴史がある建築物です。最近では、美しく素晴らしいアートとして、気が高く、造園やお店などから頼まれることが多いそうです。石積みアートは、ドライストーンともよばれ、2つの意味が

あるそうです。一つは、セメントを使わず、石だけで積み上げていく。日本のお城の石垣の作り方だと思ってください。もう一つは、雨などで、水が入り込んで凍ったりすると、壊れる原因になるので、水が入らないようにしている。かなり大きな地震などが来

みえました。道を間違えたのは、風地蔵のHPの地図が神戸(ごうど)の市役所付近に矢印がしてあり、そこがお店ですと表示されています。お客様の話とか聞いて、調べていくと、その地図を載せてもなかった最初からそう

なっていたようでした。もしかしたら、これまで、その地図を見て、お店に向かって着いたら、風地蔵は無いので、あきらめて帰って行かれた人もいるのかなと思うと、申し訳ないです。

いまは、HPやネットの情報を見てから来店される方も多いのですが、スタッフ誰もネットをしないので、確認をしていませんでした。任せきりではなく、こんなことがないよう

なければ、100年は持つそうです。100年住宅です。あさ、8時。風地蔵の庭をきれいにしてください。8月29日、9月3日のこけだま教室の講師でもある、庭師奥田さんがみえました。石積みアートのイギリス出身のロイド氏と一緒に石積みパフォーマンスをするために、

にしなくてはと思いました。ロイド氏は、8時30分頃に到着しました。イギリス出身の男性で、日本

12年だそうです。普段は、岐阜県恵那市に住んでらっしゃる方です。朝6時に家を出たそうで、地図を見ながらルンルン気分であらたら全く違うところに辿り着いたと言われました。本当に申し訳ないです。

気付かれた方もみえると思います。日本語がペラペラの陽気なイギリス人です。先に、奥田さんに「きょうは1日、英語で。」と脅かされ、内心バクバクでしたが、挨拶をして喋った。心配はさつとどこかへ飛んで行ってしまいました。

朝早くからみえました。ロイド氏が見える前に、色々説明や話をしてくださいました。待っていてもなかなかみえませんが、奥田さんが連絡したところ、道を間違えて、神戸(ごうど)の方に行ってしまったというハプニング発生です。奥田さんが電話で場所を教えて、無事に



まりました!風地蔵はモーニングをしていないので、午前のお客様の入りはスローペースです。話をしながら、石の橋のようなのをつくるのか、かまぼこのような形で、間をおいて、細長い四角くカットされたのが、規則的に並んでいる

木でできた物があり、その上に石を積んでいくようです。使われる石は、イギリスの意思で石灰のような石らしく中は、気泡のようなものがあり、持つ石なので重いのですが、金槌見たいなので石を割ったりして、加工しやすい石のようです。そしてセメントの代わりになるのが小さく砕かれた白い石に黒い石が点々に入った御影石を石の間に詰めていくという感じです。

細かく説明されました。一人の女性が石が好きで、自分の家でもやっていて興味があるからと新聞を見て電話をかけて見に来て下さった方もいました。

午後からは、暑いのもあり、カフェにお客様もいっぱい、石積みアートを初めて観る人が多く、中には一生懸命、話を聞かれる方もみえました。お店の前を通りかかると、人も、なんだろう?という感じで、みていかれました。気づいたらかまぼこのような気の枠が外されていて、空間ができていました。本当に橋のよう

です。寄せ植えアートやモザイクアートの方もみえて、お店の中も賑やかです。15時30分ごろ、石積みパフォーマンスが終わりました。本当は黙々と石積みだけをやっていたら2時間ほどで終わっていたそうです。

パフォーマンス中、写真を撮ったりしましたが、最後はロイド氏と奥田さんとその知り合いの方もみんな撮りたいと思いい声をかけて、写真を撮りました。奥田さんがロイド氏が忘れましたが、自分のブログに載せた

いからと、黒の一眼レフを渡されて撮ろうとしたら、お店の中から、「私も写るよ」と言いながら目一杯笑顔の店長が登場。'おーい'と思

いながら仕方なく撮り、店長は満足した顔でお店に戻って行きました。奥田さんもロイド氏もイケメンなので仕方ないですけどね...でもね... やっと3人のショットを撮り、お店のデジカメで奥田さんとロイド氏のツーショットを撮り、奥田さんに見せたら、「どっちがイギリス人かわからない」と言っていました。・・それはいいです。

1ヶ月後のイベント期間中は、石積みアートをそのまま展示することになりました。石積みアートを近くで見れたことで、まだ見ぬ芸術がいっぱいあるんだなと思うと、ワクワクしてきました。

こういうイベントがあることで、いろんな芸術に触れ、いろんな人と知り合える機会だと思えます。その先のイベントを考えると楽しみだなと思いながら、片付けを始めました。

おわり



朝9時から石積みパフォーマンスがはじ



ちよつと立ち話

新婚日記
をよませせてもらって
ます。いい方と巡り合
えましたね。うわべだけ
じゃなくて、すべて知っ
ていて包みこんでる感じがしますね。(エステNさん)

おかあさん！
ありがとうございます！
しんぶん、あの日の事、あんなふうに書いてくれてありがとうございます。うち、読みながら、泣けて泣けてみんながびっくりするぐらい泣いたよ。お母さんの気持ち、嬉しかったよ。(りおん)

天災は、本当に怖いですね。防ぐこともできないしですね。日ごろからの備えは

大事です。今亡き人を思い出したり、思い出話をするのも親孝行だと思ってるので、店長も話をするので思い出したのですね。

たかおさんすごい。いきなり女の子7人の親？頭が下がります。オーナーもりおんちゃんも涙をたくさん流し、それぞれ違う場所で成長しているのが伝わります。

私も子どもの頃は、翌早朝カブトムシをとりに行った日がなつかしく思い出しました。(美紀)

すごいね。印刷代もばかにならないよね。続けるって、大変な事ですね。(グルポンのお客様)

社長が結婚して初めてりおんちゃんが来て甘いことができないけど、我慢してるのが伝わってきます。それと社長も気持ちがいっぱいだったのが伝わってきます。何も知らない警察の方にまで話を話す社長はさすがだなと思えました。あまでつすさんのフェルメール展、行きたいけど、大垣から豊田市は遠い。車がないので電車のみ。うらやましいです。大橋さんの息子さんと共にや級と一緒に成長していった姿を見てからこそ、よけいに気が抜けてしまったのだと思います。新たな目標はすぐに見つかるといいですね。店長とお父さんは、他の兄弟たちより可愛がられ、大事にされてきたのだと思います。そして一番D

NAが濃いのかもしれないです。カブトムシ・私も触れる自信がないので、キヤーキヤー言う奥さんの気持ちわかります。カブトムシが来る木がある家はいいですね。いつまでも子どもさんの心の思い出として、一生残る素敵な事だと思えます。(由里子)

新聞を読んでいて、社長さんがお元気なんだといつも思っています。(エステのTさん)

社長とリーちゃんの関係。そして、たかおさん。本当にすごいです。ありがとうございます。こんなに愛されている社長。うらやましいです。リーちゃんもきつとあとからはたかおさんがお父さんとなつてよかったですと思っています。

大橋さんのは、本当に息子さんと一緒に歩んできたんだなと思えました。そういう関係っていいですね。原先生のは、昔の事を思い出しました。あまでつすさんのはほとんど知らない事を詳しく教えてくれるので見てみたいと思えます。奥田さんのは、そのやり取りとか目に浮かびます。子ども頃の事を思い出します。(宣子)

今月号を、いちばんに読めるのがわたしです。読むというより、みんなが手書きで書いて送ってくれてる原稿用紙の文字を一文づつパソコンに打ち込みながら、思いを寄せています。そして、原先生の今月の文に大笑い!!!

あたしや、電話しようかと思っただけくらい笑えたよ!!!いい関係で、それが成長してる様子を文字から読み取りながら嬉しく頼もしく思っています。完璧ななんていない!!!毎朝の電話の朝礼で話す、あたしの悩み相談コーナーで、それはよくわかっているかなって思えます。(笑)

もつと自分を肯定して、ひねくれず、すねず、堂々とできればもつともつと幸せが早くやってくるのに、性格上なかなか難しいかな。その点は、店長とあたしがよく似てて、大橋さんと原先生は前向きなエネルギー。バランスのいい最強の仲間ですね!!!早く会いたいよ!!!(ほみしいらし)

笑顔がいつぱい

大橋 美紀

8月13日私はお休みをもらい、私の実家に家族でお墓参りに行きました。私たちが家族を迎えてくれたのが、弟夫婦と母、祖父です。

私の息子次男(寮生)は、高校に入学して初めて夏自宅に帰って来たので、皆が次男に「久しぶりやなあ」

「真つ黒でたくましくなった」と声をかけ、大歓迎でした。私の弟が、お昼ヤナに行こうと連れて行ってくれました。

父が生きていた頃は、アユが大好きで、物心ついたときからシーズンになると、何度も連れて行ってくれ

た場所でした。ヤナにくると、父を思い出します。この日は揖斐川沿いのヤナで、本当に暑い日。風もない日で、もつと山奥に行けば、もう少し涼しかったんだらうけど、実家から15分の岡島ヤナでしたので河川敷のちよつど堤防の下なので、いつそう暑いアユを食べるところに備え付けの扇風機が所々に回っているだけで、他の方も子どもは裸状態で食べてみました。席に着きまずビールです。汗たくさんあります。本当によく飲みます。最初に出てきたお刺身だけで、瓶ビール6本。暑いのもあったのですがペースも速く、子どもたちもヤナに

大興奮で、「旨い旨い」の連語です。上手なアユの食べ方、骨の取り方を弟が子どもたちに教えながら笑っている姿、そして汗を流しながら食べている孫たちを見ていて、家族ついで兄弟ついでいいなあと思ひ、幸せな気持ちでした。アユ料理はお刺身で始まり、甘露煮、フライ、塩焼き、みそ、そしてもう一品塩焼きを弟がつけて頼んでくれていました。最後の締めはアユ雑炊と白ごはんが運ばれてきました。それぞれみな1つ杯づつ食べたのですが、雑炊も白ごはんもまだまだたっぷり残っていました。ここは息子の出番です。アユ雑炊の中に白ご

はんをどんと入れ、即席アユ雑炊をつくって、最初はお椀の中であつたのですが、面倒だと、アユ雑炊の入ったなべの中に白ごはんを入れまことに高校生飯って感じで、なべから食べる息子を見て、私の母は口をポカンと圧巻でした。寮のごはんは、朝食は1年生がつくっていますので、味噌汁が辛かったり、ごはんが固いとこがあつたり、ぐじゃぐじゃで柔らかい時もあるし、夕食は通いでつくってくださる人がいるんですが、練習が終わる時間もいろいろ出遠征で戻ってくるので、遅くなる時もあり、もちろん冷めてるし、硬くなつていて、あまり

おいしくないみたいですが、この夏家に帰って来てから、何でも「旨い」「旨い」と冷ややかでも感動してるほどで、それに私は、この猛暑の続く毎日ですが、その言葉でつくる気力をアップさせてくれていきます。私もたくさんつくってしまおうし、息子もつい食べ過ぎてしまつて、「家に帰ってかめつちや太つた」と。(笑)

そんな話をしながら汗だくで楽しい会食をしました。やっぱりずっと顔を見れなかった、話も出来なかった、次男の話が中心でしたが、いろんな話をしてくれて私の母は父が亡くなつても、さびしいとは思って、こうして皆で楽しい時間時は笑顔がいつぱいでした。母は孫が本当に可愛いんでしよう。食事が終わると、孫を連れて買い物に出掛けて行ってしまいました。息子はいろいろ買ってもらって上機嫌で帰ってきました。次男は8月の29日にはまた寮に戻って行きます。卒業式まで寮生です。戻る最後の日に、また思いで作りに家族で出かけようと思っっています。もちろん母も一緒にいます。皆の笑顔をたくさん見るために。

新婚記

しらしみほ

きのう、だーりんのお母さんのいちばん上のお兄さんのお葬式でした。

危ないと電話がかかってきたのが、日曜日の朝、ちょうど唐津を走ってた私達は、

風母さん達と落ち合っ

明に陥ったおじさんのベッドのもとへ。

とお母さん。すると、おじさんは顔をたか

おの方に向けたかと思つと、手を差し伸

かけん！とたかおが答える。「兄さん！

たかおがいま、いちばん幸せよ」と大き

聞次の日雨が降ったので、少し仕事を早く

お通夜に間にあつた私たち。その夜は、

「たかおは仕事やけど、あたしはあしたの葬式行くけん。」

と。「お母さんが忙

しいけん、どつちか出ればよかよと言つた言葉を、そのままとつたらいかんと思つた。死に際にあれだけたかおに言つてくれたおじさんよ。あたしは行く。そしてお母さんも帰ると思つけん、乗せて帰つてくれればよかる？」そんな話をしていたら、

「もう帰るけん！」はい、ケンカが始まる。結局、駐車場の車の中で、一緒に5時まで寝て、あさがた寝ずの番の交代をした。「あたしははじめに来たとやけんひとりにせんでよ。ずっと横におつてよ。」よと約束をして、葬儀の1日が始まったところだ、一人の生活が長いのか、いつもあたしを置いてサツサと行ってしま

気が付いている、「みほ」「みほ！」「しらしみほ」「とまみちゃんや、おじちゃんと呼ぶけど、ガン無視。まさにしつけされてないちつちやい子どもだ！福岡に着く頃は大雨で、お母さんの携帯に「だいじょうぶか？」と電話もかかってくる始末。

てくれたことが一番嬉しかことよ。だけれもそんなと思つてはおらん。」とお母さん。「オレだつて、オレが泊まるつて言ったら、おまえも一緒ってことやるう。どうして堂々としておらんとや。」つてたかお。「それなのに、みんな心配させて、あんな態度してしまつた・・・。」飾ってどぎやんするね。そのまんま

でもよかつた。と、ホローになつてないけど、ホローしてくるお母さん。「おまえはまだまだ子どもやな。まゝだわかつたらっさんもんね。」って、芳枝さんが、りおんのことを話した時のセリフが氣にいつて、いつつも言われる今日この頃です。こんな嫁さん、恥ずかしいな。



庭師 奥田良樹

押忍！

子供達のはじめての空手大会に参加した。岐阜県各地の道場から集まり、学年別のチャンピオンを決める大会。二人とも習い始めて一年ちょっと。毎週まじめに稽古には行っているが、まったく期待していない。もしかしたら一回戦くらいは勝てるかも？と思っていた。

お姉ちゃんは女子唯一出場。善戦したけど、結構ボコボコにされて敗戦。少し泣きそうだったけど、必死でこらえていた。見て見ぬふり。なかなかいいシーンだ。龍は絶対だめだろうと思って、直前に「もし優勝したら任天堂DS(ゲーム)を買ってやる」と人參作戦。教育上よくないのは重々承知。本人はなぜか変な自信を持っていて、周りの大人たちに「買ってもらう」と言いまくっている。

ゲームパワー？が炸裂して、あれよあれよと勝ち上がっていく。自分自身もだんだん熱くなって、「蹴りいれろ！」と大声を出して応援。ビデオ撮影どころではなくなってきた。力が入りすぎて映像がボケまくり・・・

決勝戦も延長になり、スタミナも切れてフラフラ。しかしやっぱり最後はゲームパワー。見事優勝。大きいトロフィー、賞状、そして見事ゲームをゲット。ものすごくうれしそう。もちろん優勝よりも、ゲームだ。

もし自分の野球や仕事と重なっていたら、間違いなく自分の予定を優先していたと思うが、これからは日曜日はなるべく休みにして、ちょっとは子供に合わせていこう。しばらくは人參作戦は封印。興奮して楽しい一日を過ごすことが出来た。子供達に感謝。押忍。